

2023年3月期第2四半期 決算説明

2022年11月9日
いすゞ自動車株式会社

説明内容

1. 全体総括
2. 2023年3月期上期実績及び通期見通し

本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するものを除いては、現時点で入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定及び判断に基づくものです。従いまして、かかる仮定及び判断に含まれる不確定要素や将来の経済環境の変化などを含む種々の要因によって影響を受ける可能性があり、ゆえに、当社の将来の業績、経営結果等と異なる結果をもたらす可能性があります。

常務執行役員
グループCFO
企画・財務部門統括代行

中俣 直人

1. 全体総括

全体総括①

1. '23年3月期上期実績

- CVは、半導体不足及び上海ロックダウンによる部品供給不足の影響を受けた。
- 損益は、資材費・物流費の高騰あるも、LCVのVOL増及び円安進行により増益。

2. '23年3月期見通し

- 海外市場は、CV・LCV共に引き続き需要好調。
- CVの半導体供給は、回復基調も想定より遅れており、先進国向けで減産影響が発生。
- 資材費は、現地調達品も含めて想定を超えて上昇。
- 損益は、資材費の更なる高騰及び半導体不足の影響あるも、売上構成の改善及び大幅な円安進行により、通期見通しを上方修正する。

グループCFO、企画・財務部門統括代行の中俣でございます。
まずは全体を総括して説明いたします。

23年3月期の上期実績について、CVは、半導体不足及び上海ロックダウンによる部品供給不足の影響を大きく受けました。

損益は、資材費及び物流費が高騰したものの、LCVのVOL増加及び円安進行により、増益となりました。

23年3月期の見通しについて、海外市場は、CV・LCV共に引き続き好調です。一方で、CVにおける半導体供給は、回復基調ではあるものの、想定に対して遅れており、先進国向けでもう一段減産影響が発生する見込みです。

資材費は、現地調達品も含めて、期初の想定を超えて上昇しています。

損益は、資材費の更なる高騰、及び半導体不足の影響があるものの、売上構成の改善及び大幅な円安進行により、通期の見通しを上方修正いたします。

全体総括②

3. サプライチェーン混乱による影響

	上期実績	下期見通し
日本 (CV)	<ul style="list-style-type: none"> 半導体供給不足は継続 上海ロックダウンにより、大小トラック部品供給に支障あるも、影響は上期で収束 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体供給は回復傾向も、今期中の正常化は見込めず
タイ (LCV)	<ul style="list-style-type: none"> 一部の部品で供給に支障あるも、稼働に大きな影響なし 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、一部の部品で供給が不安定な状況が続くも、高水準の生産計画を見込む

続いてサプライチェーンの混乱による影響について、説明いたします。

日本では、上期は半導体不足による生産制約が続きました。また、上海ロックダウンの影響も重なり、CVでライン稼働停止を伴う減産影響が発生しましたが、こちらは既に収束しています。半導体不足は下期にも継続する見込みです。回復基調は続いているものの、今期中の正常化は見込めない状況です。

タイでは、一部の部品で不安定な供給が継続しているものの、ライン稼働には大きな影響を及ぼしておらず、今後も高水準の稼働を予定しております。

全体総括 '23年3月期上期実績

グローバル販売台数(千台)		'23/3上期	'22/3上期	対前年比増減	
CV計	国内CV	27	* 37	▲10	▲27%
	海外CV	148	* 132	+16	+12%
	CV計	175	* 169	+6	+3%
LCV計	タイLCV	104	71	+33	+45%
	輸出LCV	104	92	+12	+14%
LCV計		208	163	+45	+28%
合計		383	332	+51	+15%

決算実績(億円)

*22/3上期：4-6月UDトラック販売台数含む（国内CV+2千台、海外CV+2千台、CV計4千台）

売上高	*14,933	11,451	*+3,482	+30%
営業利益	1,122	973	+149	+15%
経常利益	1,255	1,066	+189	+18%
当期利益	730	711	+19	+3%

*UDトラック取り込みによる売上高影響：+793億円

23年3月期 上期実績の総括です。

グローバル販売台数は、半導体不足による生産制約を受け、国内CVは先期を大きく下回った一方で、新興国市場向けに生産を振り替えた結果海外CVは先期を上回っております。LCVは、半導体供給の改善を受け、先期を大きく上回る結果となりました。

売上高は、販売台数の増加に加え、UDトラックの取り込みもあり、先期から3,482億円の増収となりました。損益につきましては、資材費等が高騰したものの、販売台数増加及び為替による増益効果もあり、増収増益となりました。

全体総括 '23年3月期見通し

グローバル販売台数(千台)		'23/3期 今回見通し	'23/3期 期初見通し	期初見通し比 増減		(参考) '22/3期
CV計	国内CV	69	70	▲1	▲2%	65
	海外CV	293	294	▲1	▲0%	278
		362	364	▲2	▲1%	343
LCV計	タイLCV	206	217	▲11	▲5%	173
	輸出LCV	232	221	+11	+5%	205
		438	438	+0	+0%	378
合計		800	802	▲2	▲0%	721
決算見通し(億円)						
売上高		31,000	30,000	+1,000	+3%	25,143
営業利益		2,300	2,000	+300	+15%	1,872
経常利益		2,450	2,100	+350	+17%	2,084
当期利益		1,400	1,270	+130	+10%	1,262
1株当たり配当		72円	66円	+6円		66円

23年3月期 通期見通しの総括です。

グローバル販売台数は、期初見通しと比較して、CVでは半導体供給の回復が遅れていることを受け、国内・海外共に減少を見込みます。LCVではタイ国内向けと輸出で入り組みはあるものの、期初見通し並みの台数を見込みます。

売上高は、販売台数の見通しは減少するものの、大幅な円安進行による為替効果により、上方修正いたします。

損益は、資材費の高騰が続くものの、売上構成の改善及び大幅な円安進行による増益を受け、期初見通しからの増益を見込みます。

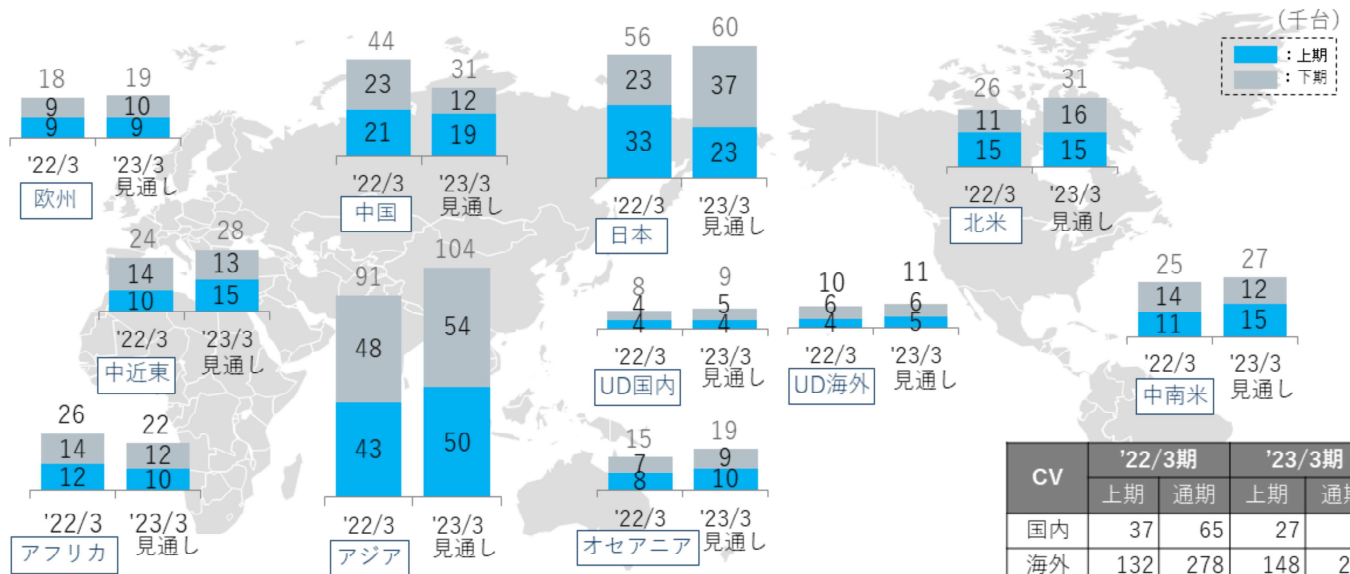
配当予想は、当期利益の見通しを上方修正することを受けて、期初見通しより6円増加の1株当たり72円といたします。

2. 2023年3月期上期実績及び通期見通し

続いて、23年3月期上期実績及び通期見通しについて、詳細を説明いたします。

CVグローバル販売台数①

- 上期は、半導体不足及び上海ロックダウンの影響により、先期から微増に留まる
- 下期は、想定より遅いペースも、半導体不足の回復により先進国向けの台数が上期から増加



CV	'22/3期		'23/3期	
	上期	通期	上期	通期
国内	37	65	27	69
海外	132	278	148	293
計	169	343	175	362

*国内CV：国内卸売・直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷

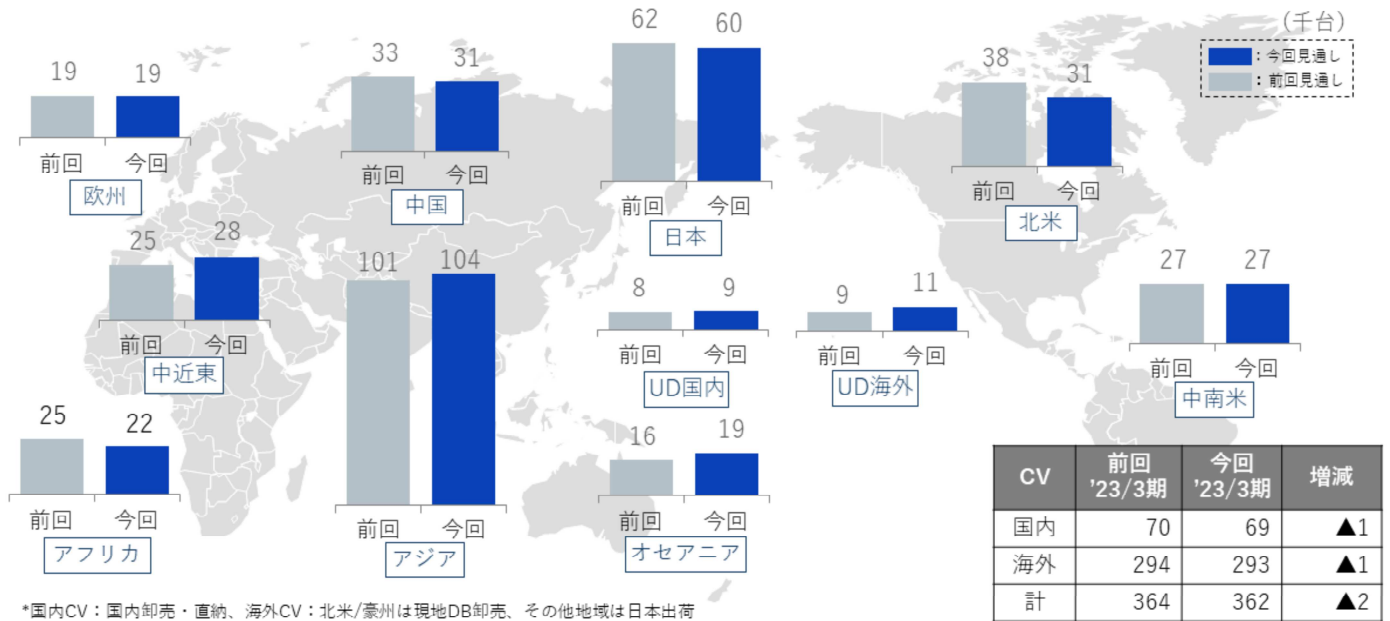
CVグローバル販売について説明いたします。

上期のCVグローバル販売台数は、半導体不足及び上海ロックダウンの影響により、先期より微増の175千台に留まりました。下期につきましては、想定より遅いペースではあるものの、半導体不足の回復を受け、日本向けCVの販売台数の改善を見込んでおります。

CVグローバル販売台数② 通期見通し(5月公表値との比較)

ISUZU

- 半導体供給の回復遅れにより、先進国向けで減産影響が発生
- 販売までのリードタイムを短縮することで、減産影響を最小限に留める



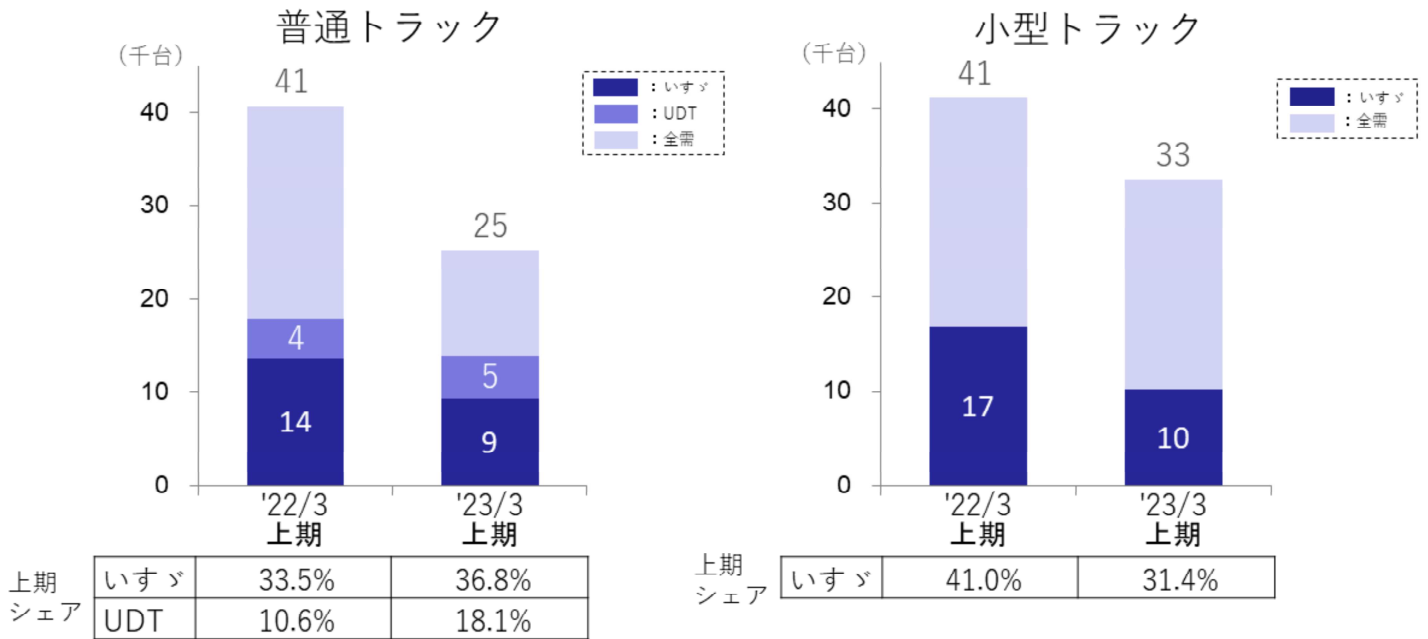
こちらは、5月の公表値との比較です。

今回見通しは、半導体供給の回復遅れを反映しており、日本・北米といった先進国向けCVで見通しを引き下げています。

一方で、少しでも早く車両をお客様にお届けするべく、販売までのリードタイム短縮により減産影響を最小限に留めるように努めてまいります。

国内全需・シェア実績 普通トラック/小型トラック（4 - 9月）

- 全需：各社の生産制約により、普トラ/小トラ共に前年割れ
- シェア：普トラは、いすゞ/UDトラックス共に伸ばす一方、小トラは生産制約の影響により落とす



上期の国内全需とシェア実績です。

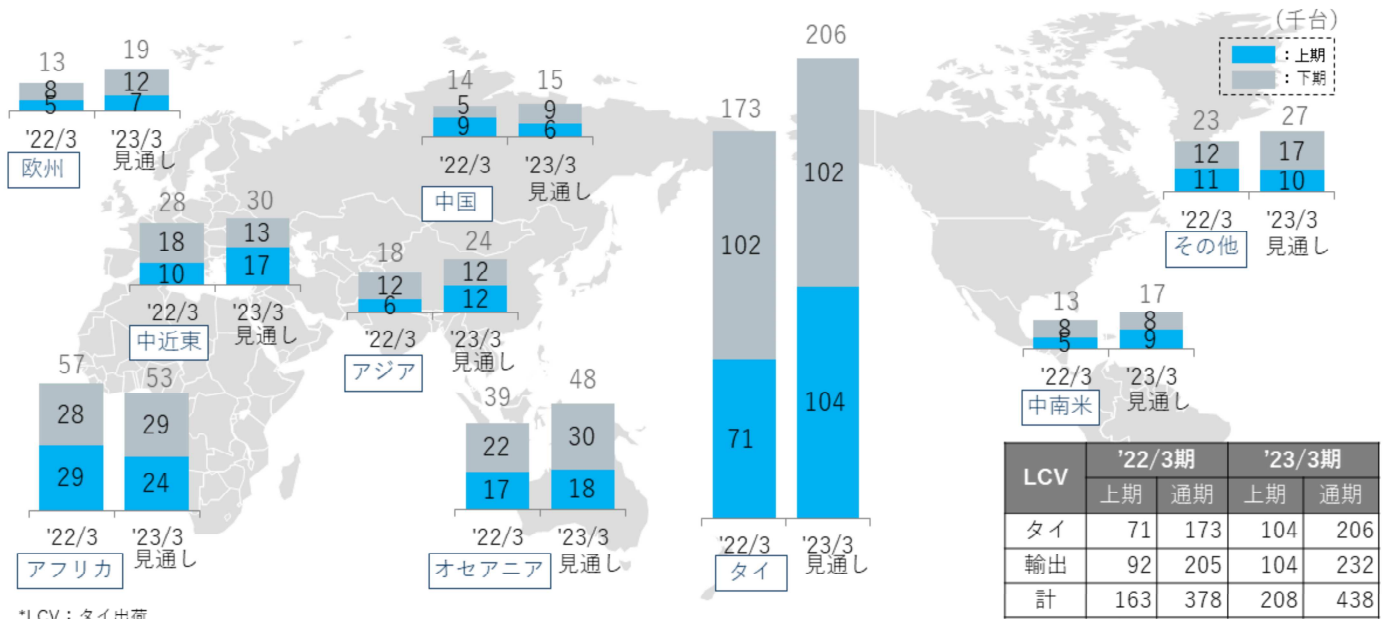
全需は、各社の生産制約を受け、普通トラック・小型トラックともに先期を大きく下回りました。

シェアは、普通トラックではいすゞ・UDトラックスともに先期を上回ったものの、小型トラックでは、生産制約によりシェアを大きく落としております。

なお、全需の通期見通しは、普通トラック・小型トラックともに引き続き未定といたします。

LCVグローバル販売台数①

■ 半導体不足の影響を受けていた先期と比較して、タイ国内向け・輸出共に台数増



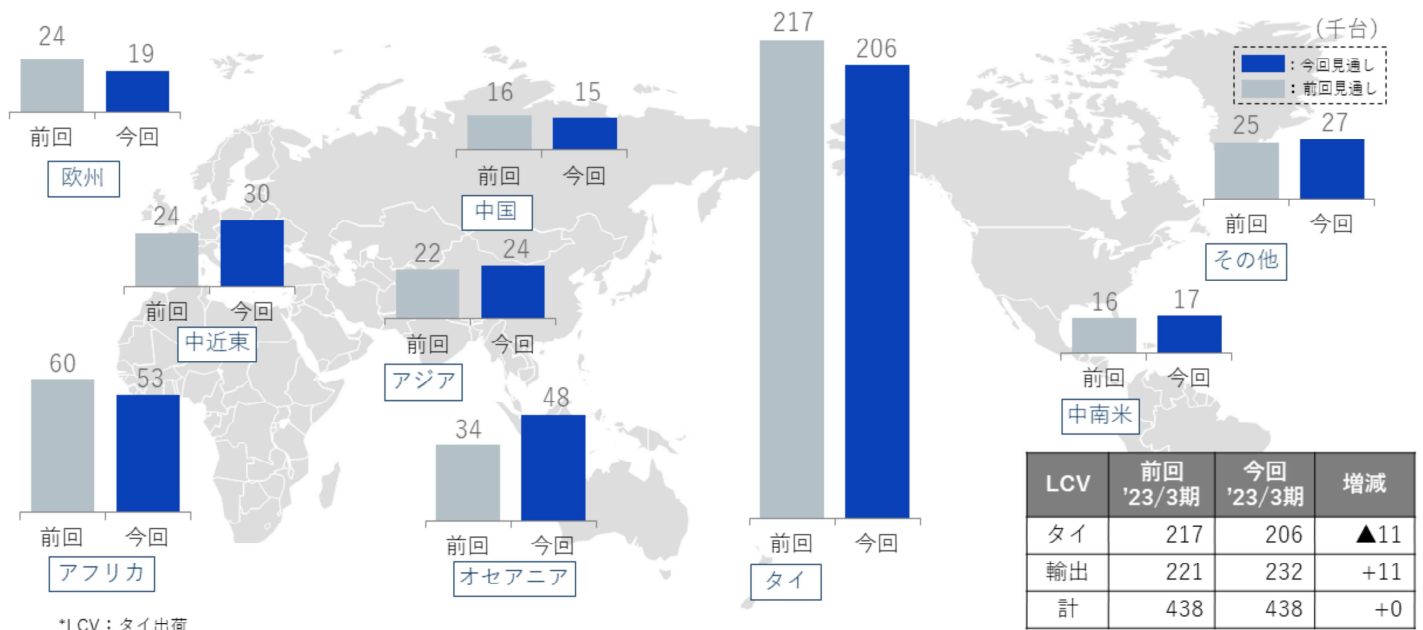
LCVグローバル販売台数です。

上期は、半導体不足による減産影響が大きかった先期と比較して、販売台数はタイ国内向け・輸出ともに大きく増加いたしました。下期も同様に、先期と比較して大きく増加する見込みです。

LCVグローバル販売台数② 通期見通し(5月公表値との比較)

ISUZU

■ トータル台数は変わらずも、一部部品の供給改善により生産車両の仕向・車型を見直し

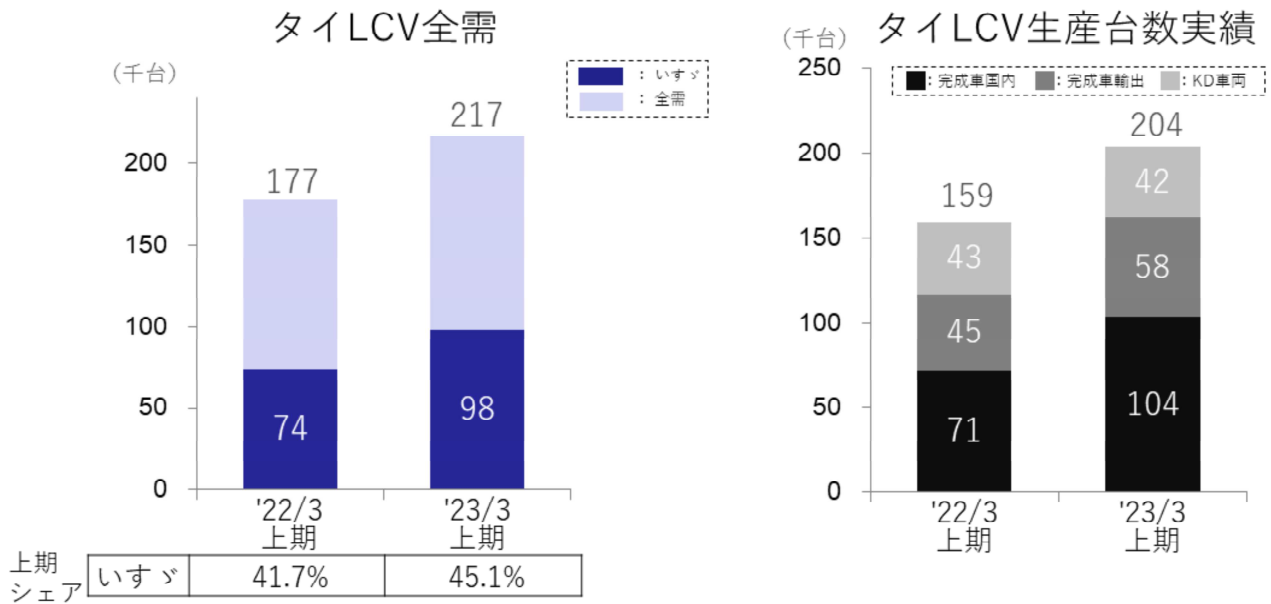


こちらは、5月の公表値との比較です。

一部部品の供給改善を受け、トータルの販売台数の変動ありませんが、仕向及び車型を見直した結果、タイ向け減、輸出増となっております。

タイLCV全需・シェア/LCV生産台数実績（4 - 9月）

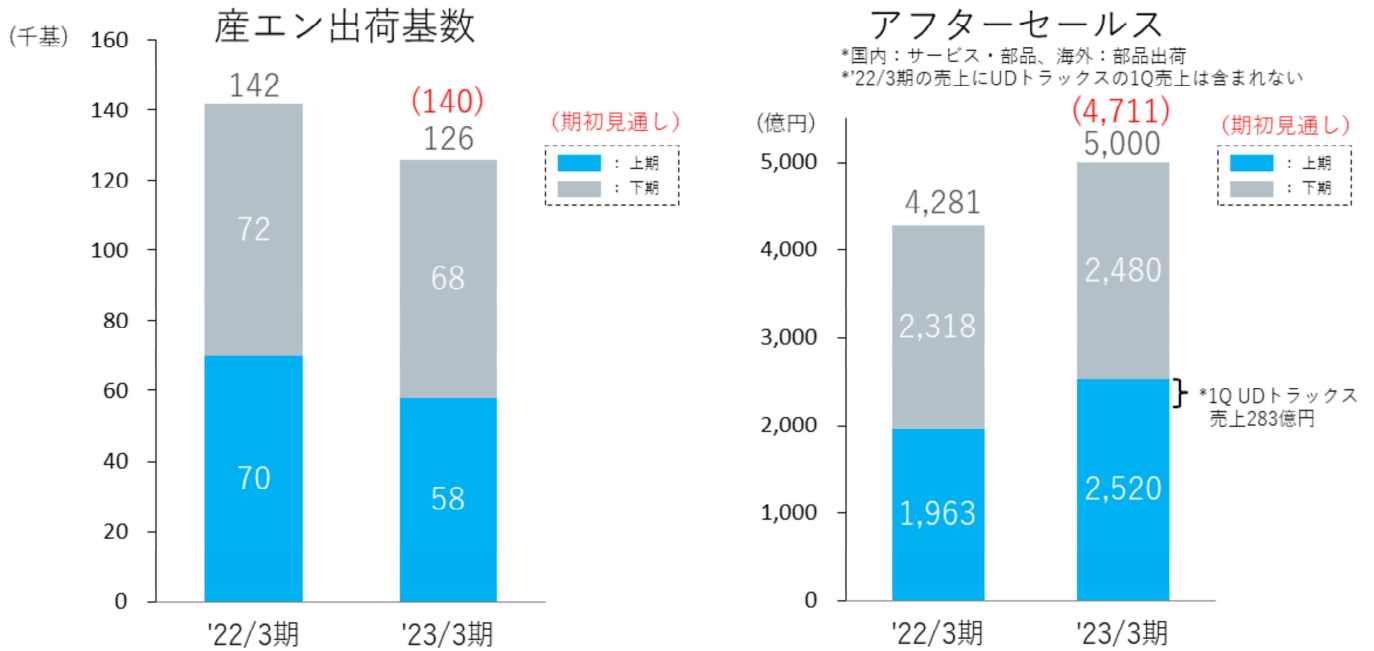
- 全需/シェア：全需が回復する中、シェアは先期を上回る
- 生産台数：半導体不足の影響を受けていた先期から大幅に増加



上期のタイLCV全需・シェア、及びLCV生産台数実績です。
 全需が回復する中で、シェアは先期を上回ることができました。
 生産台数についても、半導体不足の影響を大きく受けていた先期に比べて、大幅に増加しました。

産業用エンジン出荷/アフターセールス売上

- 産エン：中国建機需要の減速及び半導体不足により、通期見通しを引き下げ
- アフターセールス：国内・海外の順調な増加に加えて、為替効果により通期見通しを引き上げ



産業用エンジン出荷及びアフターセールス売上です。

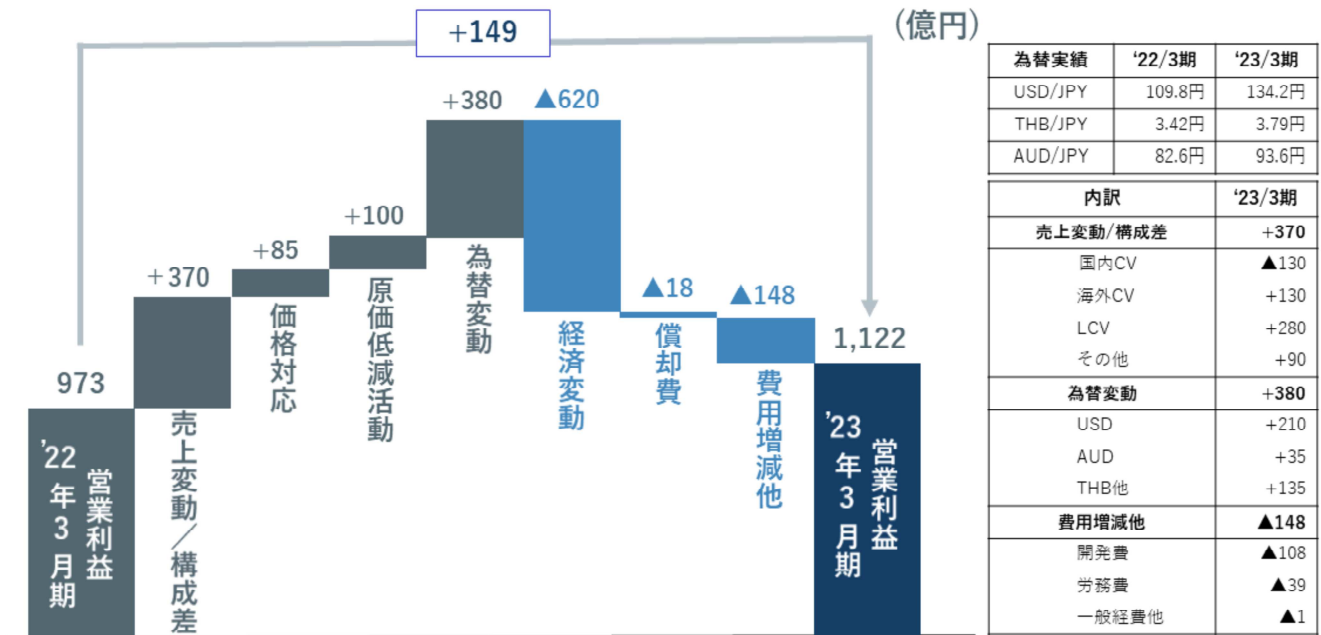
産業用エンジンの上期の出荷基数は、中国建機需要の減速及び半導体不足により、先期を下回りました。通期見通しも引き下げております。

アフターセールス売上は、円安の為替効果に加え、国内・海外共に順調に増加していることから、通期見通しを引き上げます。

なお、先期の売上にはUDトラックの4月～6月の売上は含まれていません。

'23年3月期上期営業利益 増減分析 -前年同期比-

■ 資材費・物流費の高騰あるも、円安進行、VOL増加、原価低減活動及び価格対応により増益



続いて、23年3月期上期の営業利益の増減分析です。

資材費・物流費の歴史的な高騰が続いているものの、VOL増、大幅な円安の進行に加えて、原価低減活動及び価格対応といった採算改善を進めたことによって、149億円の増益となりました。

為替実績は表に記載した通りでございます。

‘23年3月期上期実績 -前年同期比-

(億円)	‘23/3上期	‘22/3上期	対前年比増減	
売上高	14,933	11,451	+3,482	+30%
営業利益	1,122	973	+149	+15%
経常利益	1,255	1,066	+189	+18%
当期利益*	730	711	+19	+3%

	‘23/3 上期	‘22/3 上期		‘23/3 上期	‘22/3 上期
営業利益	1,122	973	経常利益	1,255	1,066
持分法による投資損益	+34	+50	投資有価証券売却損益、固定資産売却損等	+5	▲9
為替差損益	+44	+9	法人税等	▲327	▲211
その他	+55	+34	非支配株主に帰属する当期純利益	▲203	▲135
経常利益	1,255	1,066	当期利益*	730	711

*親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

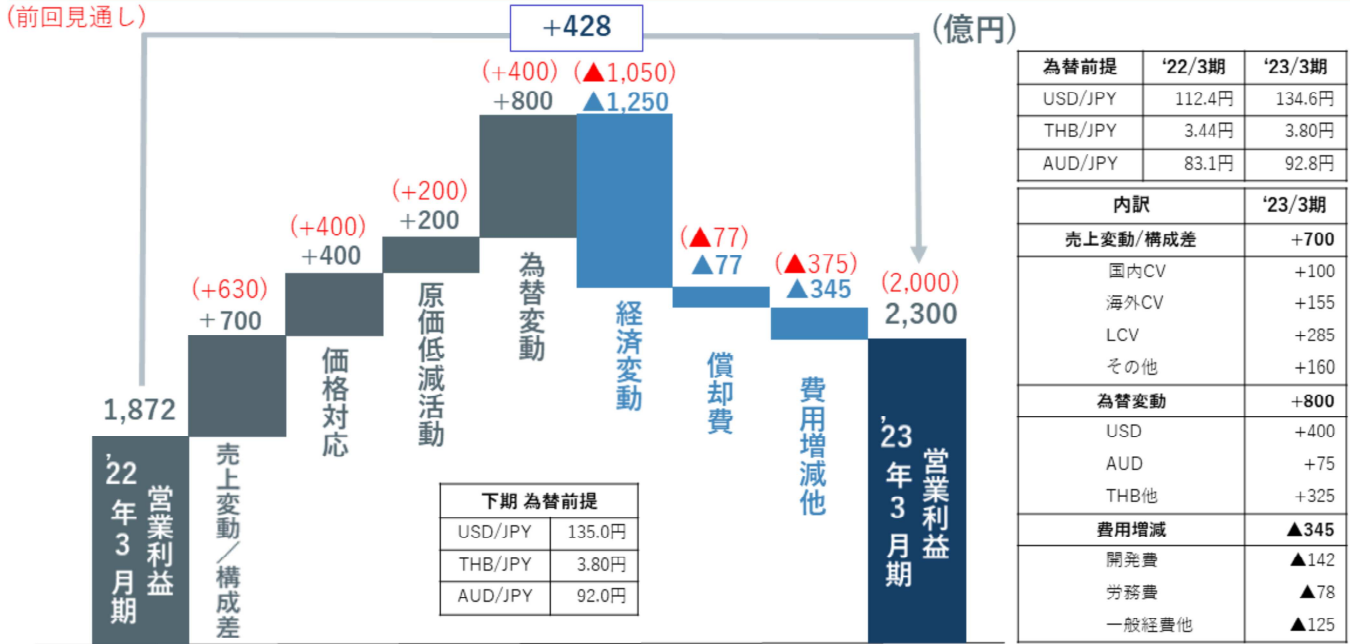
23年3月期上期の営業利益以下の説明です。

当期利益は、経常利益1,255億円から投資有価証券売却損益及び固定資産売却損益等、法人税等、及び非支配株主に帰属する当期純利益を差し引き、730億円となりました。

なお、損益の対前年比増減において、経常利益の増益幅+189億円と比較して、当期利益の増益幅は+19億円と小さくなっております。これは、主に先期に税効果会計による一過性の利益が含まれていることに因ります。

'23年3月期営業利益見通し 増減分析 -前年同期比-

■ 半導体不足の回復遅れ及び資材費の高騰が想定を超えるものの、売上構成の改善及び大幅な円安進行により、期初見通しから増益。為替前提を見直した上で、通期見通しを上方修正する。



続いて、23年3月期通期見通しの営業利益の増減分析です。

半導体不足の回復遅れによるVOL減、及び想定を超える資材費の高騰が見込まれるものの、売上構成差の改善、及び大幅な円安進行を受け、通期見通しを上方修正いたします。

なお、下期の為替前提は、USドル135円、タイバーツ3.8円、オーストラリアドル92円に設定しております。

‘23年3月期決算見通し -前年同期比-

(億円)	‘23/3期	‘22/3期	対前年比増減	
売上高	31,000	25,143	+5,857	+23%
営業利益	2,300	1,872	+428	+23%
経常利益	2,450	2,084	+366	+18%
当期利益*	1,400	1,262	+138	+11%

	‘23/3期	‘22/3期		‘23/3期	‘22/3期
営業利益	2,300	1,872	経常利益	2,450	2,084
持分法による投資損益	+69	+96	投資有価証券売却損益、固定資産売却損等	▲60	▲41
為替差損益	+50	+58	法人税等	▲590	▲476
その他	+31	+58	非支配株主に帰属する当期純利益	▲400	▲305
経常利益	2,450	2,084	当期利益*	1,400	1,262

*親会社株主に帰属する当期純利益

最後に、23年3月期通期見通しの営業利益以下の説明です。

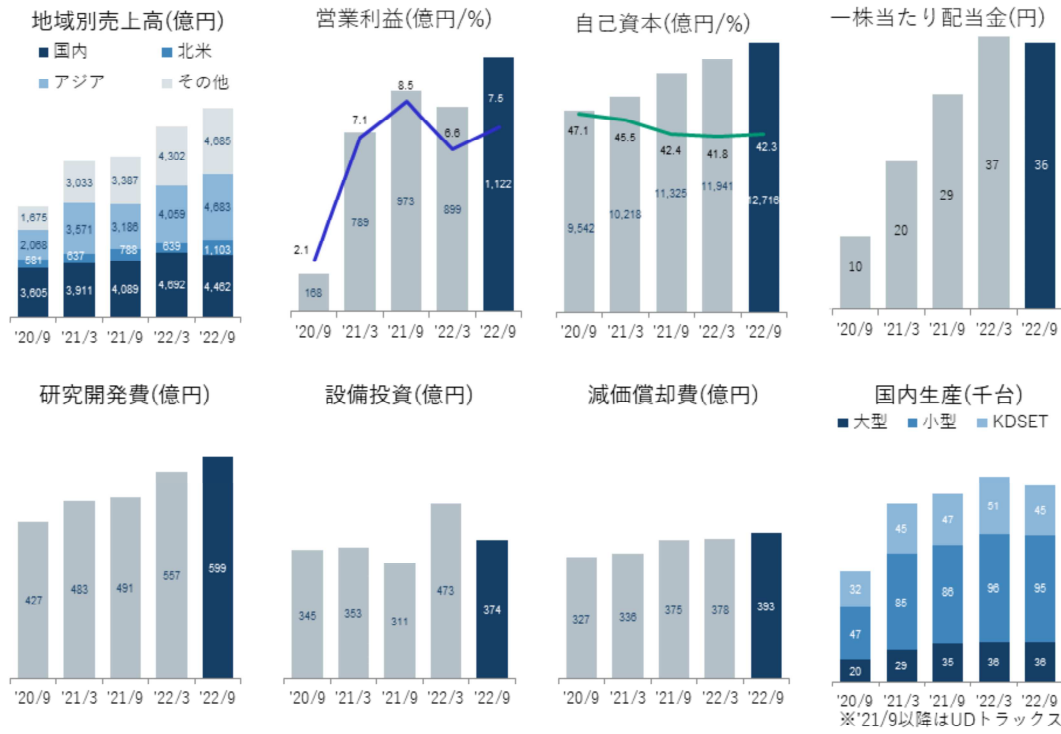
当期利益は、経常利益2,450億円から投資有価証券売却損益及び固定資産売却損等、法人税等、及び非支配株主に帰属する当期純利益を差し引き、1,400億円を見込んでおります。

私からの説明は以上でございます。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

【付表】 主要事業指標推移等(半期)



※'21/9以降はUDトラックの生産台数も含む